

## 平成 29 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第 1 年次）（概要）

1 研究開発課題名	
マネジメント能力を身に付けた職業人の育成 ～ 札幌の未来を担う人材の育成	
2 研究の概要	
<p>本研究は、札幌市立で唯一の商業高校である本校を核として、地元札幌を中心とした企業、外部教育機関、行政、地域社会が有機的に結び付くことで、人的資源、物的資源、財務的資源及び情報の資源を適切に活用する「マネジメント能力を身に付けた職業人の育成」を目標とする教育プログラムの開発を目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 育成する資質・能力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマナー・コミュニケーション能力      ・協調性・協働性</li> <li>・リーダーシップ      ・企画力・創造力      ・顧客満足実現能力      ・ビジネス探究能力</li> <li>・会計情報提供・活用能力      ・情報処理・活用能力</li> </ul> </li> <li>● 研究開発するプログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>・「観光」分野に関する取組      ・「MICE」分野に関する取組</li> <li>・「国際交流」分野に関する取組      ・「地域ビジネス」分野に関する取組</li> <li>・「起業家教育」分野に関する取組</li> </ul> </li> </ul>	
3 平成 29 年度実施規模	
第 1 学年生徒を対象に実施した。	
4 研究内容	
○研究計画	
第 1 年次	<p><b>触れて調べて学ぶこと『知って身に付ける』</b></p> <p>1 年次は、『知る』を重点項目とし、1 年生を対象に、地域のビジネスに直接触れることで、地元“札幌”を知るとともに、人材としての“自分”を知るための学習プログラムを、科目『ビジネス基礎』を中心に実施し、その成果を分析・検証する。</p>
第 2 年次	<p><b>体験を通し『考えて行動する』</b></p> <p>2 年次は、『考える』を重点項目とし、新たに 2 年生を対象に加え、1 年生で体験した本事業における学びを基に、地元“札幌”に根付く活動を考える学習プログラムを、科目『マーケティング』を中心に実施し、その成果を分析・検証する。</p>
第 3 年次	<p><b>新たな価値を創り出し『使う』</b></p> <p>3 年次は、『使う』を重点項目とし、さらに 3 年生を対象に加え、これまでの学習や体験により身に付けた能力やつながりを活用し、地元“札幌”に貢献する人材へと成長するためのプログラムを、科目『課題研究』・『総合実践』を中心に実施し、学習のまとめとして、生徒自身が本事業における活動による成果について発表や提案を行い、全体としての成果を分析・検証するとともに、本事業を総括的に評価する。</p>
○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）	
特記事項無し	

○平成 29 年度の教育課程の内容（平成 29 年度教育課程表は別紙添付）

- (1) 商業科：「ビジネス基礎」（第 1 学年・必修・3 単位）
  - ・互いに知識と意識を共有する「協調性・協働性」の育成
  - ・新たな起業に向けて、互いのアイデアを尊重する「企画力・創造力」の育成
  - ・ビジネスに必要な「会計情報提供・活用能力」の育成
  - ・地域の産業を新たなビジネスとして捉える「ビジネス探究能力」の育成
  - ・地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成
  - ・外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成
  - ・正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成
  - ・「リーダーとなる力（リーダーシップ）」の育成
  - ・実際に即した「ビジネスマナー」を使える能力の育成
- (2) 商業科：「情報処理」（第 1 学年・必修・3 単位）
  - ・正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成
- (3) 外国語科：「コミュニケーション英語 I」（第 1 学年・必修・3 単位）及び「英語会話」（第 1 学年・必修・2 単位）
  - ・地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成
  - ・外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成
- (4) 地理・歴史科「地理 A」（第 1 学年・必修・2 単位）
  - ・地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成
- (5) 学校行事
  - ・活動の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成
  - ・「リーダーとなる力（リーダーシップ）」の育成

○具体的な研究事項・活動内容

- (1) 課題を見出し、未来を創造するために、現状を知りマネジメント能力の基盤を身に付ける学習プログラム

- (ア) 互いに知識と意識を共有する「協調性・協働性」の育成 【観光分野の取組】

「地元、札幌を知る」  
～ さっぽろ未来創生プランの作成・みんなで取り組む地域のまちづくり

① 実施内容

- ・「5つの分野」の導入に当たり、地元、札幌の現状や将来についての基礎的・基本的な知識の習得を目的とし、札幌市まちづくり政策局から講師を招いた「さっぽろ未来創生プラン」と題した講話を実施。
- ・この講話を基に、自分たちが考える「札幌の現状と将来像」をテーマに、1年生全員がクラスごとに少人数グループでのディスカッションを行い、その成果をポスターにまとめて各グループが発表することにより、全体でこれからの学びの方向性についての共有化を図った。
- ・これらの活動により、プレゼンテーションの手法やグループディスカッションの進め方などについての理解を深め、さらには、実際の体験を通して、他人の意見を尊重し、グループで協力することの意義を理解するなど、協調性・協働性を育成する実践を行った。

② 実施状況

6月中旬から7月上旬の合計9時間 科目「ビジネス基礎」の授業で実施

(イ) 新たな起業に向けて、互いのアイデアを尊重する「企画力・創造力」の育成

【起業家分野の取組】

「起業家の基礎」～ ビジネスアイデアはどのように創出するのか

① 実施内容

- ・起業に関する興味・関心を高めることを目的とし、企業コンサルタント（株）ヒューマン・キャピタル・マネジメント代表取締役 土井氏）を講師に招き、「自分の周りにある起業のチャンスに気付く方法、お客様からはじめる経営とは？」と題した講演を実施。
- ・この講演において講師から紹介された自らの起業体験を交えた話を聞くことで、「ビジネス基礎」で学習した内容を、起業に必要な経営組織、資金調達、雇用などに結び付けながら、ビジネスについての理解を深める学習プログラムとした。
- ・講演の中で講師から具体的な課題を生徒に与えていただき、その課題について、各クラスでKJ法やマンダラートなどアイデア創出技法を利用したグループ討議を実施し、各グループが起業案を作成。
- ・これらの活動により、企画力や創造力を身に付け、さらには、自己のアイデアを主張するだけでなく、他者のアイデアを受入れ、互いに力を合わせて課題に取り組む協調性や協働性を育成する実践を行った。

② 実施状況

12月上旬に9時間 科目「ビジネス基礎」の授業で実施

(ウ) ビジネスに必要な「会計情報提供・活用能力」の育成

「ビジネスに関する計算の基礎」～ 企業のデータを利用したビジネス計算を学ぶ

① 実施内容

- ・実践的なビジネス計算の基礎力を身に付けられるよう、北洋銀行の財務諸表（前期・有価証券報告書）を用いた簡単な財務比率の計算を活用することにより、能力の伸長を図った。
- ・さらに、マネジメントに必要な会計情報提供・活用能力の基礎・基本の育成を図るため、地方銀行の資金調達に関する道新記事を用いた授業を実践した。

② 実施状況

10月下旬の3時間 科目「ビジネス基礎」の授業で実施

(エ) 地域の産業を新たなビジネスとして捉える「ビジネス探究能力」の育成

【地域ビジネス分野の取組】

「地域ビジネスの基礎」～札幌における新たなビジネスの振興

① 実施内容

- ・国内研修の際にスポーツ庁で講義を受けた体育教員2名が、「地域ビジネスの意義や先進的な取組」と題した講話を行い、いかにしてスポーツと地域の課題を関連付けて、ビジネスとして捉えるか、ビジネス探究の視点に立った説明で、生徒の興味や関心を高めた。
- ・スポーツ庁から講師（高下専門官）を講師に招き、「スポーツを通じた地域振興について」と題した講演を実施し、紹介された全国各地で先行する地域ビジネスの取組についての内容を参考とし、地域振興のアイデアを各生徒が持ち寄り、クラスごとにディスカッションを行い、成果のポスター発表を通して、全体で地域ビジネスの考えについて共有化を図った。
- ・実践結果から、「スポーツはコストからベネフィットへ」という地域ビジネスの新たな方向性を見出したことで、その成果を来年度実施する新ビジネスの基礎とすることができた。

## ② 実施状況

11月中旬の9時間 科目「ビジネス基礎」の授業で実施  
(オ) 地域の良さや課題を深く知る「顧客満足実現能力」の育成

【MICE分野の取組・観光分野の取組】

「国際観光の動向と札幌MICEを知る」

～ 道内バス研修を通じて、直に見る、直に聞く

### ① 実施内容

- ・観光分野で先進的なニセコを見学し、ツーリズム・コンサルタント（ポール氏）より「地域の現状や取組内容について」の講話を受け、本校の観光学習の導入とした。
- ・また、外国人観光客が訪れる高級宿泊施設3カ所を見学し、施設責任者から英語で説明を受けるとともに、ニセコ高校訪問では、緑地観光科の中谷教諭から「地元の活性化に結びついていない」という話を聞き、ニセコ観光の現状と課題に関する理解を深めた。
- ・事後学習で顧客満足やホスピタリティを考える際にこの研修体験を有効に活用した。
- ・札幌コンベンションセンターを見学し、施設担当者より「MICEの基礎的・基本的知識と札幌の現状について」の講話を受け、本校のMICE学習の導入とした。
- ・新千歳空港を見学し、外国人への観光動向のインタビュー体験を通してコミュニケーションの基礎・基本や積極性を高める身に付けた。
- ・これらより顧客満足実現能力が身に付き、今後実施される観光プランの作成やMICEビジネスにおけるイベントプランの作成に対する興味・関心や意欲を高めた。

### ② 実施状況

6月上旬（バス研修1日・事前事後学習3時間） 科目「ビジネス基礎」の授業で実施

(カ) 外国人観光客に対応する「コミュニケーション能力」の育成

【国際交流分野の取組】

「国際観光都市としての札幌を知る」

～ 外国人観光客のおもてなしと国際観光都市推進プロジェクト

### ① 実施内容

- ・北星大学森越教授を講師に招き、「国際観光都市札幌のおもてなしについて」の講演を実施。
- ・札幌市における国際観光都市としての実状やおもてなしについての理解を深め、国際的に通用する顧客満足実現能力やコミュニケーション能力に必要な知識や技術の習得を図った。
- ・英語の授業において、札幌の代表的な観光地を調査し、国際観光を発展させる提案について、英語によるプレゼンテーションを行った。また、授業の成果を生かした実践をするため、大通公園にて開催されたオータムフェストに代表生徒が参加し、外国人観光客への観光案内やインタビューなどの体験を行った。

### ② 実施時期

9月上旬から2月下旬の29時間 科目「英語会話」・「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業で実施、一部（イベント参加）は代表者が実施

(キ) 正確な情報を入手し、正しい活用をする「情報処理・活用能力」の育成

「情報の取捨選択をする」～ 必要な正しい情報の見分け方を学ぶ

### ① 実施内容

- ・「ビジネス基礎」及び「情報処理」の授業を通して、情報の信頼性を見極め、正しく選択し、活用できる力を身に付けた。
- ・また、地域ビジネスや起業家教育等でアイデア創出を行うことで、新しいビジネスを考える上で必要な情報を選択し、分析する力やそこから課題を発見し、主体的に対応する能力を育成した。

② 実施時期

11月中旬の2時間（「ビジネス基礎」の授業時間数）実施

(ク) 「リーダーとなる力（リーダーシップ）」の育成

【MICE分野の取組】

「イベントを知る」～札幌で行われるイベントへの参加

① 実施内容

- ・代表生徒が、オータムフェストに参加し、イベント担当者からMICEイベントの企画立案や運営側の体験等について説明を聞き、イベントの立案や企画の基礎・基本を学んだ。
- ・代表生徒が体験した活動の内容やそこから得たことなどを全体に伝えることにより、イベントをリーダーとして率いる力（リーダーシップ）の育成を図ることとした。

② 実施時期

9月30日に代表生徒がイベント参加により実施

(ケ) 実際に即した「ビジネスマナー」を使える能力の育成

「実際のビジネスで使ってみる」～基本的ビジネスマナーの実践

① 実施内容

- ・代表生徒が、オータムフェストに参加することにより、その企画運営の体験を通して実践的なビジネスマナーの必要性について理解を深めるための取組を行った。
- ・さらにすべての生徒を対象として、「ビジネス基礎」の授業において応対実習等を実施。

② 実施時期

9月30日に代表生徒がイベント参加により実施

同時期に2時間（「ビジネス基礎」の授業時間数）各クラスで実施（応対の授業）

(コ) 活動の輪と視野を広げるための「コミュニケーション能力」の育成

【観光分野の取組・地域ビジネス分野の取組・国際交流分野の取組】

「来年度の活動につなげる」～生徒国内及び海外研修

① 実施内容

- ・今後の活動の題材となる観光分野やMICE分野、地域ビジネス分野の最新の情報を入手するため、代表生徒参加の研修（横浜商科大学やスポーツ庁等）を実施し、報告会を開催した。
- ・国際交流や外国での取組の橋渡し役として、代表生徒が、台湾台北の景文高級中学を訪問及び現地の最新のビジネス情報を得るため、世界貿易中心やMICE施設である南港展覧館を見学し、直接、担当者から説明を受けた。

② 実施時期

- ・国内研修：8月2日～4日の2泊3日 海外研修：12月18日～21日の3泊4日

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

本校における研究成果については、札幌市教育委員会主催により札幌市中心部の地下歩行空間で全市立高校が参加する「市立高校プレゼンテーション大会」において広く市民に公開を予定し、研究成果の普及を図ることとしている。また、各種研究会での実施状況の紹介や研究紀要にも掲載し、研究成果の普及に努め、他校における新たな取組検討の参考となることを期待している。

また、実施状況については、実施内容や反省、改善点などを記したショートレターをその都度HPに公開するとともに報道機関の取材を受け、掲載された。（北海道通信10件・北海道新聞2件）

### ○実施による効果とその評価

各取組のアンケート結果を基に、目的としていた資質・能力の育成がどの程度達成できたかを評価した。（評価基準：回答平均値「A」100～76、「B」75～51、「C」50～26、「D」25～0）

資質・能力	評価	活動内容	実施による効果
ビジネスマナー コミュニケーション能力	A	(カ) (ケ)	国際都市としての現状を理解し、外国語による表現力やコミュニケーションを図る力を身に付けることができた。
協調性・協働性	A	(ア)	班の中で自分の意見を相手に伝えることや他者の意見を尊重する意識が向上した。
リーダーシップ	B	(ク)	他者と協力していく中で主体的に行動する姿が見られ、集団をまとめることや調整していく力が身に付いた。
企画力・創造力	A	(イ)	物事の見方を変えることによって、新たな価値が生まれるきっかけにつながった。
顧客満足実現能力	A	(オ)	国内の先進的な取組や海外における商慣習を学び、顧客満足の実現を図る姿勢を身に付けた。
ビジネス探究能力	B	(エ)	課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった。
会計情報提供・活用能力	B	(ウ)	実在する企業の財務諸表を活用する力を身に付けた。特に金融機関のビジネスについて学びを深めることができた。
情報処理・活用能力	A	(キ)	アイデア創出のための情報収集を行う際に適切な情報を見分けられるようになった。

### ○実施上の問題点と今後の課題

- (1) 資質・能力の育成を目指し、様々な学習プログラムを計画・実践しているが、現状では、各学習プログラムが有機的に連携した相乗効果の発揮までは至っていない。次年度の事業に向け、各学習プログラムが有機的に結び付き、教育効果が最大化するよう工夫が必要である。
- (2) ビジネスの進展は目まぐるしく、実際のビジネスの現場に足を運び、その実情を知ることや体験・見学は有意義であるが、その際、体験・見学の活動だけで終わることのないよう事前・事後の学習を充実させ、育成する資質・能力を明確にする必要がある。
- (3) 今年度は主に教科「商業」「外国語」「社会」の授業の中で資質・能力を育成するために各学習プログラムを展開した。次年度に向けては、さらに他の教科の目標や内容を生かせる分野については教科横断的に学習プログラムを実施し、学校全体の取組としていきたい。
- (4) 第2年次となる次年度は第2学年の学習プログラムが今年度育成した資質・能力を土台として発展させるものとする。また、第1学年の学習プログラムは今年度実施した内容を精査し、継続・変更を判断する。
- (5) 学習プログラムの計画・実施・評価においては「何ができるようになるか」という資質・能力に常に重点を置き、それらを育成するために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」に向けての研究を深化させる。
- (6) カリキュラムマネジメント・学習プログラムを開発する際には、教科「商業」の目的を念頭に置き、全ての活動がビジネスにつながることに留意する。特に、経営資源である「人・モノ・カネ・情報」を効果的に組み合わせ、実際のビジネスにより近いものにする。